

4・25福知山線列車脱線事故を問い、公共交通を守る街宣行動

安全確保を求める取り組みを強化しよう

芸備線の維持と利便性を

地本は4月25日、全国統一安全行動日として、「4・25福知山線列車脱線事故を問い、公共交通を守る街宣行動」を行いました。
岡山駅サンステ通路・福山駅南口前（釣り人像）にて、マイク宣伝・チラシ配布行動を行い、福山駅には池上福山市議会議員、「退職者の会」などが参加してくれました。参加人数は25名です。



地本は10時30分より、岡山駅において、12時20分より福山駅前において、「JRの安全問題・ローカル線廃止反対」のマイク宣伝チラシ配布行動を展開した。

岡山駅では、青山地本書記長の司会で小林地本委員長・定広第一支部委員長・亀高第三支部委員長がマイク

ク宣伝をし、福山駅では、藤江第三支部書記長の司会で小林地本委員長・池上福山市議会議員・亀高第三支部委員長が、市民・通行者・JR利用者に対して、「安全・安心の公共交通をめざしている。列車減便・駅の無人化により、安全とサービスの低下している。そして、ローカル線を守ろう」とチラシ配布・マイク宣伝を行った。

小林地本委員長

2005年4月25日に発生したJR福知山線脱線事故から、今日で19年を迎えます。この事故によって107名の尊い命が奪われました。当時は「安全」より



利益追求が優先されたことにあります。また、「日勤教育」に象徴される労働者に懲罰を背景とした上下下達という企業体質が大きく影響した。
国労は、JRの安全確保を求める取り組みを強化し、安全・安心の公共交通をめざしています。事故以降、

経過した現在でも企業体質の根本は変わることはなく、労災死亡事故・など危険な事象は後を絶たない実態で、大規模な輸送障害も相変わらず多発しています。

同時に人減らし合理化をはじめ業務委託や外注化施策を積極的に推し進めています。そして、駅の無人化・窓口閉鎖を推し進めていく方向です。

JR西日本は、利益だけを優先して、公共性を放棄し、安全・サービスを切り捨てることは鉄道会社として決して許せない。

そして、国鉄から引き継いだJRは、公共交通を守るといふ社会的責務がありません。国は、ローカル線の維持と利便性を図るために積極的役割を果たすことが求められている。



池上福山市議会議員



国鉄「分割・民営」化は安全よりも利益優先だった。その延長線上に福知山線列車脱線事故がある。そして、公共交通が地域に根ざしていなければならぬ。さらに、利用者の安全第一だが、JRは輸送の合理化・利益追求をしている。

芸備線の廃止問題は大きな問題だ。芸備線の廃止は、住民の移動手段を切り捨てること事になる。ローカル線の赤字は、国・自治体が補填しなければならぬ。しかし、JRの姿勢は、地域になすりつけている。

地域の将来を展望したときに、公共交通の見直しをいい方向にしなければならぬ。地域の移動手段を確保していくことが重要だ。